科目ナンバリング	U-LAS70 10001 SJ50						
授業科目名 <英訳>	ILASセミナー ：文化人類学調査法 ILAS Seminar :Cultural Anthropological Research			担当者所属 職名・氏名	人間・環境学研究科 教授 風間 計博 人間・環境学研究科 助教 梶丸 岳		
群	少人数群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	ゼミナール（対面授業科目）
開講年度・開講期	2025・前期	受講定員 (1回生定員)	5 (5) 人	配当学年	主として１回生	対象学生	全学向
曜時限	水5	教室	1共23			使用言語	日本語
キーワード	フィールドワーク / 調査計画 / 資料収集 / 文化人類学						

（総合人間学部の学生は，全学共通科目として履修登録できません。所属部局で履修登録してください。）

[授業の概要・目的]

フィールドワークは、文化人類学における必須の資料収集方法である。本演習は、文化人類学のフィールドワーク法を体得する準備段階に位置づけられる。そのため、段階を踏んで、初歩的なフィールドワークの経験を積むことが、本演習の概要である。まず、準備作業としての事前情報収集、人類学的な主題設定と計画立案を行う。つぎに、教員が受講生を引率して、実際に調査地に泊り込みで出かけ、一次資料を集める。さらに、収集資料をまとめて考察し、口頭発表する。2025年度は、奈良県大淀町近辺において、6月21日（土）～6月22日（日）に実施する予定である。場所や日程については、受講生との相談により正式に決定する
ただし、感染症や気象等の状況によっては、フィールドワークを中止することもある。

[到達目標]

本演習の目標は、下記の手順により、フィールドワークの基本的な技法を体得することにある。
１）文献等を事前に収集して準備作業を行い、実践的な調査計画を立てる。
２）実地調査地に行き、調査計画に基づいて聞き取りや参与観察を行う。
３）収集資料をまとめて分析し、テーマに基づいて考察する。
単なる情報収集に終わることなく、人類学的に考察を行うことが重要である。

[授業計画と内容]

第１回～第４回：日本語で書かれたフィールドワークの方法論や民族誌を輪読し、担当者が発表する。発表内容について討論する。
第５回～第７回：受講生自らが関心をもつ個別の対象について、調査地に関わる文献等を渉猟して、基本情報を収集し、口頭発表と討論を行う。なお、資料収集においては、授業時間外の自習を含む。

第８回～第11回：個別対象から抽出した人類学的なテーマについて、文献を読む。学生自らの問題関心を人類学の既存研究と結びつける。問題関心に基づいて、予備調査計画を立てて口頭発表し、全員で討論する。
授業時間外：調査地に赴いて調査を行い（1泊2日）、現地で収集資料をまとめる。
第12回～第14回：調査資料を整理したうえで考察し、口頭発表する。
第15回：授業の総括およびフィードバック

[履修要件]

特になし

ILASセミナー ：文化人類学調査法(2)へ続く↓↓↓

ILASセミナー ：文化人類学調査法(2)

[成績評価の方法・観点]

授業における積極性、情報をまとめたプレゼンテーション、議論、発表レジュメの充実度をもとに評価する。詳細は授業中に説明する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する
参考資料となる市町村史等が図書館に入っているので、活用すること。

[授業外学修（予習・復習）等]

フィールドワークに関わる文献に目を通す。また、授業の性格上、自分の関心テーマに関して、積極的に文献研究や情報収集を行う。

[その他（オフィスアワー等）]

自ら積極的に調査する意欲が必要である。多様な事象に興味を持ち、疑問に基づいて課題を設定し、自ら解決するために創意工夫する態度が望まれる。人類学関連科目が多数開講されているので、それらを履修することが推奨される。
なお、フィールドワークを実施する場合、かかる費用は受講生の負担となる。調査に先立ち、学生教育災害傷害保険に加入しておくこと。
1泊2日の調査費用は、受講生の自己負担であり、今年度の往復交通・宿泊費は、合計1万5000円程度（現地での活動費・食費を除く）を想定している。

[主要授業科目（学部・学科名）]